

【別紙1】

小笠原村立小笠原小学校令和6年度授業改善推進プラン

小笠原村小笠原小学校

校長 西村 浩

(1) 令和5年度の取り組みに関する総括

①村学力調査の概要

時期	対象学年	教科等	
5月	2～6年	2・3年 国・算 4～6年 国・社・算・理	3～6年 学習・生活に関する意識調査

②村学力調査結果

教科全体の平均正答率(%)について ※()内は、全国の平均正答率との差

	国語	算数	社会	理科
2年 R5	83.6 (+6.7)	86.9 (+4.0)	—	—
R6	72.1 (+0.1)	75.4 (-0.8)	—	—
3年 R5	76.0 (+3.5)	70.2 (-4.2)	—	—
R6	69.6 (-3.2)	74.8 (-3.2)	—	—
4年 R5	65.2 (-5.6)	67.2 (-4.7)	53.9 (-14.1)	56.7 (-6.3)
R6	73.2 (-0.2)	58.0 (-7.2)	71.3 (-0.8)	54.3 (-0.9)
5年 R5	70.4 (+0.4)	69.1 (+2.0)	57.9 (+0.9)	66.8 (±0)
R6	53.4 (-11.5)	50.9 (-13.1)	40.3 (-19.7)	48.7 (-12)
6年 R5	72.6 (+3.6)	65.2 (+0.6)	64.1 (-1.3)	59.7 (-1.4)
R6	59.8 (-2.9)	57.1 (-4.6)	53.0 (-9.8)	47.9 (-12.4)

R5…令和5年度調査結果 R6…令和6年度調査結果

【各学年 経年変化 (R5→R6)】

2年	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
国語 R6	81.8 (-1.1)	54.0 (+2.5)	80.5 (-0.3)	62.0 (+0.7)	50.0 (+1.3)
算数 R6	80.6 (-0.6)	53.9 (-1.5)	82.6 (+0.3)	50.0 (-4.7)	64.0 (+0.6)

3年	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
国語 R5	91.5 (+5.8)	68.8 (+8)	91.4 (+3.7)	78.6 (+8.6)	74.4 (+12.2)
R6	78.6 (-1.7)	51.8 (-6.1)	76.0 (-1.4)	61.2 (-4.7)	48.6 (-8)
算数 R5	90.0 (+2.5)	73.8 (+10.8)	88.9 (+3.3)	79.9 (+6.8)	80.3 (+8.8)
R6	80.9 (-0.8)	53.1 (-11.6)	78.8 (-1.5)	52.9 (-12.8)	63.6 (-9)

4年		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
国語	R5	83.6 (+3.6)	60.7 (+3.6)	81.8 (+2.1)	70.1 (+4.5)	59.0 (+3.6)
	R6	78.5 (+0.1)	61.9 (-0.9)	76.7 (+4.2)	67.3 (-2.1)	63.8 (+3.8)
社会	R5	—	—	—	—	—
	R6	60.8 (-6.3)	50.0 (-10)	55.9 (-7.8)	61.5 (-6.3)	50.6 (-7.1)
算数	R5	75.6 (-4.7)	51.0 (-3.3)	73.6 (-4.6)	55.6 (-3.5)	68.1 (+0.2)
	R6	74.8 (-0.4)	62.2 (-2.1)	72.8 (-2.2)	65.7 (+3.9)	72.9 (-2.1)
理科	R5	—	—	—	—	—
	R6	62.4 (+1.1)	35.6 (-5.1)	62.1 (-0.9)	49.2 (-0.7)	50.0 (-1.3)

5年		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
国語	R5	71.6 (-4.2)	50.7 (-9)	64.7 (-7.3)	58.5 (-5.5)	41.1 (-14.8)
	R6	55.6 (-9.1)	48.6 (-17)	55.1 (-9)	48.9 (-14.2)	38.9 (-22.4)
社会	R5	58.2 (-9.8)	43.8 (-24.1)	57.5 (-13.1)	47.8 (-15.8)	43.8 (-24.1)
	R6	46.4 (-15.8)	25.4 (-28.1)	43.4 (-15.4)	34.0 (-27.4)	29.2 (-26.7)
算数	R5	70.4 (-5.6)	57.6 (-1.9)	71.8 (-4.7)	50.8 (-4.3)	66.7 (-7.8)
	R6	56.3 (-12)	40.4 (-15.4)	56.5 (-13.9)	34.0 (-10.9)	32.2 (-15.9)
理科	R5	61.6 (-6.6)	43.1 (-5.5)	62.7 (-6.5)	47.7 (-5.9)	38.9 (+0.9)
	R6	57.1 (-11.3)	29.0 (-13.9)	55.6 (-11)	38.4 (-13.5)	50.8 (-12)

6年		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
国語	R5	73.7 (-0.8)	63.2 (+3.5)	71.1 (-0.3)	69.1 (+3.2)	56.8 (+8)
	R6	66.2 (-9.7)	45.2 (-2.5)	61.5 (-11.2)	55.9 (-4.7)	41.5 (-5.2)
社会	R5	64.1 (+2.9)	42.9 (-3.8)	63.6 (-1.2)	46.6 (-5.6)	42.9 (-3.8)
	R6	57.3 (-8.1)	42.3 (-14.1)	58.4 (-7.3)	44.8 (-13.6)	47.0 (-12.6)
算数	R5	72.9 (+1.7)	61.7 (+2.4)	73.0 (+2.2)	59.1 (+1.4)	60.8 (+5.8)
	R6	61.2 (-5.7)	44.2 (-1.3)	61.5 (-6.7)	46.9 (+-0)	35.9 (-4.2)
理科	R5	69.6 (-1.5)	59.2 (+4.1)	70.0 (+0.2)	62.8 (-0.1)	46.1 (-6.5)
	R6	49.6 (-13.8)	44.6 (-9.5)	55.0 (-13.3)	42.5 (-11.6)	49.0 (-13)

③総評

村学力調査の令和5年度から令和6年度の学年ごとの教科全体平均正答率の推移を見ると、どの学年も全国正答率を下回っている。第2学年は初めての学力調査であったが、全国正答率にほぼ近い値である。第3学年以上の学年ごとの経年変化は以下のとおりである

- ・第3学年は、昨年度は全国正答率を大きく上回っていたが、今年度は、「活用」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で大きく下回っている。

- ・第4学年は、社会以外の教科で全国正答率に近い値である。しかし、昨年度に比べると全体的に低下している。
- ・第5・6学年は、「基礎」、「活用」、各観点で、全校正答率を大きく下回っている。しかも昨年度よりも大きく下回っている。特に社会と理科は10%以上大きく下回っている。

(2) 授業改善のための取組について

課題①：基礎・活用

どの学年も十分な基礎・活用の力を身に付けていない。読み書き、計算、読書の習慣など、基本的に身に付いていない児童が多い。そのことが、様々な学習場面や生活場面で生かされないことで活用する力が高まっていかない。各教科の基礎・基本を徹底して指導する必要がある。そのために、教員は児童の実態に即して授業の工夫をしている。しかし、その日に学んだことを家庭に帰ってから見直したり、活用したりする家庭学習が定着していない。学校で学んだことを家庭でも振り返り自学自習できる児童の育成が喫緊の課題である。

課題②：「主体的に学習に取り組む態度」

普段の授業を見ると、どの教員も教材準備をしっかり行い授業に臨んでいる。児童の実態に即してカリキュラムマネジメントも行っている。まだまだ授業改善を図っていかなければならないが、児童の多くが受け身の授業になっていることは否めない。児童が主体的に「～したい。」と思うような授業改善と学校で学んだことを家庭で振り返り、着実な力に変えていく家庭の協力が得られなければ、本当の意味での授業改善は図れないと考える。そのためには家庭の意識を変え、学校と家庭が車の両輪となって児童の学力向上を図っていく必要がある。児童の「主体的に学習に取り組む態度」が高まれば、必ず、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の力も高まってくると考える。

以上の課題を解決するために、児童が「わかる」から「できる」授業を実践し、学校全体で指導と評価の一体化を図り、統一感をもって指導に当たらなければならない。

課題③：学校全体で取り組む事項

本校では、「わかる」から「できる」を体感する授業の確実な実施に向けて学校経営方針に示す「やりたい」「知りたい」「学びたい」「伝えたい」が溢れる授業づくりを目指す。

具体的には、以下のとおりである。

- ① 校内研究で振り返りの活用とICTの効果的な活用を重点に研究を進める。児童自ら振り返りを充実するには、めあてや見通しをもち、対話によって自分の考えや意見を、他者に伝えたり、他者と協働して課題を解決したりして学びを深めていく必要がある。
- ② 指導と評価の一体化の充実のために、日々の授業で指導のねらいを明確にし、学びの過程（課題設定→対話的活動→自己評価活動）を重視した授業を行う。
- ③ 義務教育9年間の学びの系統性を意識した小中一貫教育充実のための方策として、5・6年で教科担任制を導入し、教科の専門性や担任学級以外の学年の児童理解を深める。また、9年間の学びの連続性・系統性を図るために、児童・生徒理解のために互いに授業観察を行ったり、中学校教員と協働指導を行ったりする。具体的には、小学校の年間指導計画で中学校教員の専門性を生かして指導できる指導場면을検討し、単元または1単位時間で担任との協働指導を行う。
- ④ 児童に「確かな学力」を身に付けさせるために、家庭の協力は欠かせない。村学力調査の結果を学校だけの課題にすることなく、家庭でも重大な課題としてとらえてもらうように、保護者の啓発を積極的に行う。

授業改善推進プラン全体構想図

